

ョンの手法などを学ぶということで、近畿各地より障がいのある方を子にもつ親御さんの方が多く参加されていました。

午前は「家族支援・ファシリテーションの手法と実践の基礎講座」というテーマで、午後は「ファシリテーター養成講座！」というテーマでどちらの講演も明星大学人文学部福祉実践学科 吉川かおり氏が講演してくださいました。

午前は、まず家族支援プロジェクトの基本について学びました。

障がいのある子どもや大人のことに焦点をあてるのではなく、親自身の人生を支えるという「家族の根本」からもう一度考えてみましょうと言っておられました。幸いにも、各地の育成会や親の集まりの中では、親を支えるためのすばらしい試みが実践されているそうです。

次にワークショップについて学びました。

「ワークショップ」とは、参加型学習の形態のことで参加者が一方的に何かを教わるというのではなく、参加者それぞれが自主的に知恵や知識、情報などを出し合い、相互に関わることで学びを深めるということを説明して頂き、実際に行いました。私が参加したグループは障がいのある方を子を持つ親御さんのグループで、親御さんの意見をたくさん聞くことができました。

午後からはファシリテーター養成講座を受講しました。

「ファシリテーター」とは、ワークショップでその場の進行・促進・調整をする人のことで、決してリーダーとして参加者を引っ張ったり、何かを教えたりするものではなく、進行を務めながら参加者一人ひとりが活動に参加できるように支援し、参加者同士のやりとりを促進させることが大切ということを知りました。

今回のリーダー養成研修を受講して初めは、「ワークショップ」や「ファシリテーター」など初めて聞くようなものが多かったのですが、会議や研修とはまた違う話し合いの場の実践方法やファシリテーターの心得など説明して頂き、とても身になることを学ぶことができました。

今後、事業所の中でもワークショップのような話し合いの場を持ち、研修で学んだことを生かしていけたらと思いました。



## 会員向け勉強会に参加して

東成育成園支部 中島 由紀子

12月の勉強会は社会福祉法人北摂杉の子会の松上利男常務理事にお越し頂き、＜合理的配慮に基づいた支援パートⅡ～自閉症の理解と支援～＞についてご講演頂きました。

まず7月の勉強会でいったパートⅠの振り返りとして、自閉症スペクトラム障がいの特徴と、外からは見えない障がいの為に周りから理解が得られず、発達のアンバランスさが誤解を受けやすいことをお話し頂き、次にパートⅡとして今回のテーマの「強度行動障がいへのアプローチ」と「自閉症児者への具体的な支援」をお話し頂きました。

強度行動障がいは自傷・他害行為、異食、飛び出し、もの壊し等が高い頻度で起きる為に特別に配慮された支援が必要となっている状態のことで、環境要因と本人の特性の相乗作用で悪循環に陥り、極限的な状態に至った相互交渉の結果として表出することです。これらの問題行動は学齢期に出現し、卒業後に落ち着く人もいることから、個別対応をせず集団指導を行う学校の教育現場に問題があるとの見方もあります。また、施設で虐待を受けた人の25%が行動障がいを持っており、スパルタや場当りの対応で受ける高いストレスが行動の悪化に繋がるとも考えられます。国も施設への教育が必要と考え「強度行動障害支援者養成研修」制度を設けました。

行動障がいに対しては、自閉症の特性を理解し、個別のアセスメント(評価)を行い、環境を整え見通しを伝えることで改善を目指します。これにはスタッフの対応を統一することも大切で、アセスメントに沿って苦手なことを得意なことに置き換えることで強みを活かした支援を行うことは、暮らしやすい環境を提供することに繋がります。

周りの世界の「意味」を解り易く示す「構造化」の例も沢山ご紹介頂きました。目に見えないもの(言葉・ルール・気持ち・時間等)を理解することが難しい自閉症の人は「いつ」「どこで」何をするのかを視覚的に示されることで見通しを持ち、安心感が得られます。「見通しを持って生活する習慣を身に付ける為にはスケジュールを自分で確認できるように支援していくことが必要で、自分で判断して行動できるようサポートし、自己肯定感・自尊心を育てることが重要」とのお話でした。